

龍源寺報

盂蘭盆号

派樹信覺行
寺原覺行
心松原
妙松原
宗・松原
濟職
臨住職
住職
佛母寺住職
正福寺住職
TEL 3451-1853
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryigenji.com

URL: <http://www.ryugenji.com>

『論語』から

『論語』に父親の三回忌について述べたところがある。

父親が在世のときは、父のめざすところを見るのがいい。父親が亡くなれば、父の行ないをみるのがいい。三年の喪が明けるまで、父が定めた家のありかたはそのままにしておくというのであるならば、孝子ということができる。(子曰、父在觀其志。父没觀其行。三年無改於父之道、可謂孝矣。)

『論語』学而第一

父・哲明の行ないはどうだったか。祖父・泰道の行ないはどうだったか。また、その行ないの向こう側にある目指したものは何だったのか。私は、いつも、困難にぶちあたると、そこに立ち返って物事を考えていた。存在者としての父はいないが、存在感のような存在はある。その存在の根拠の上に、やがて私にとっての、泰道和尚・哲明和尚のような師と呼べる人が出現するとみなして、もう決して出会うことがないかもしれない、その師と呼べる人の出現の待望に

支えられて、私は現在を生きている。師父・哲明はよく「人生の師」を探しなさいと言っていた。人間は、師の見えない、まったく中に、投げ出されると、その中で師を求めていく。ここでいう「師」を「神」や「仏」や「親愛なる人」に置き換えてもいい。例えば、「人間は、仏の見えない、まったく中に、投げ出されると、その中で仏を求めていく」と。これは、もう少し限定を加えなければならぬが、「祈る」ことの原点は、きつとこういうところなのだろう。

私は、二人の遷化以来、彼らが居りますが如く生活をしてきた。そして『論語』のいうとおり、三年の喪が明けるまで、父が定めた家のありかたは、そのままにしておいた。つまり、母と二人で暮らしているため、母の生活環境をできるだけ変えないようにした。リフォームなどは一切しなかった。そのせいか、母も少しずつ生活を取り戻してきていくようだ。『論語』は、悲しみの最長時間は二年という。私も悲しみの克服に、二年・三回忌の時間を要した。そして、その間に、少し「苦しみ」に耐える力を養えることができたようだ。

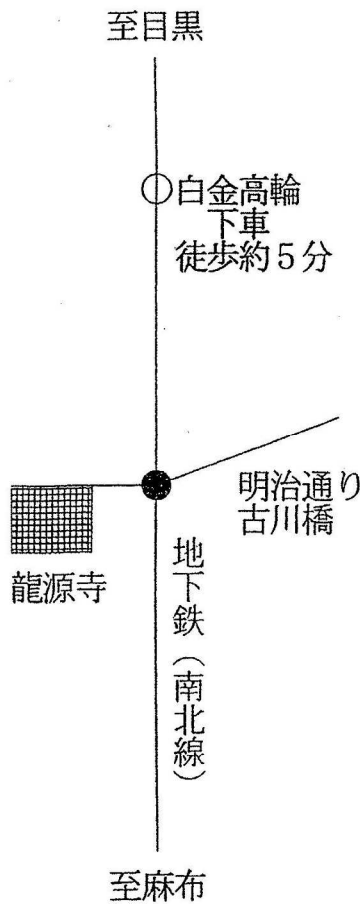
ウラボン法要

一、七月十日（火曜日）午前十一時から

二、法話

三、齋座

お車での来寺には、駐車場がありません。



龍源寺への交通の便（地下鉄）

- 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便（都バス）

- 田87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車

- 都06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車
- 品97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ（循環） 魚ラン坂下・古川橋下車
- 東98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

哲明和尚三回忌

五月二十五日に妙心寺派管長 河野太
通老大師に導師をお願いし、無事、哲明
和尚の三回忌法要を厳修することができ
ました。諸々の準備（和尚様への引き
物・案内状の作成・会議を設けたり、障
子や畳を新しくしたり、庭の整備をす
る）など、約一年の歳月を要しました。
法要は、父と祖父母がお寺に遺してくれ
たものを全て使いました。奥の座敷につ
たわる廊下の絵は、父が好きだった祖母
の絵を飾りました。本堂に置いてあるも
のはもちろん。茶碗や茶托、ポット等、
揃えていただいたものを全てを使わせて
いただきました。茶托は、父が龍源寺の住
職に就任した折りに作ったものでした。
皆様にもお参りしていただきたく、本
堂の床の間に、当日の荘厳をそのまま再
現したものを、安置しております。いつ
でもお立ち寄りください。

境内整備と経蔵建立

この度、境内の裏地に、約二十坪の閑
東財務局管理の借地を買い求めることが
出来ました。祖母・志ずが、「事情が難
しい土地だから」と言っていたことが思
い出されます。従来通り、納めていた
いたお布施は、お寺の境内整備に使わ
せていただいております。

昔からのお檀家様はご存じだと思いま
すが、しだれ桜が植えてあるところや観
音堂も、もとは家が建っております。
泰道・哲明の布教活動と総代の北村行夫
弁護士さんのご尽力で三十年近くかけて
境内が整備されました。住職の一代が、
三十年と言われております。私の代でも、
引き続き境内整備を継承し、境内の裏地
に『大般若経』を納める経蔵を建立し、
泰道・哲明の蔵書を収める建物を建てた
いと思っております。

北軽井沢 日月庵坐禅堂 禅の会

北軽井沢、日月庵坐禅堂にて、一泊二日
の禅の会（坐禅体験）を行います。北軽
井沢は、標高千メートルの高原にあり、
大変涼しいところです。
坐禅と法話を行い、「自己をみつめる」
時間に行いたいと思っております。

【日時】 八月十八日（土）～十九日（日）

【場所】 群馬県長野原郡北軽井沢町

（JR軽井沢駅より、草津温泉行き、北
軽井沢行きのバスに乗り、白樺の丘下車、
徒歩五分）

【集合】 八月十八日（土）十一時。日月
庵坐禅堂内、星雲苑研修所に現地集合。
昼食は、持参にて入山願います。

【解散】 八月十九日、十時頃。現地解散。

【会費】 三千円

【持ち物】 シーツとタオル2枚

【電話番号】

〇二七九（八四）四二〇六（日月庵）

〇三（三四五一）一八五三

柳 緑

五月二十五日、哲明和尚の三回忌法要に、妙心寺管長河野

花 紅

太通老大師を導師に拜請し、約百名の和尚様と檀家総代の皆様に御参列していただき法

要を厳修致しました。お手伝いをいただ

いた皆様に御礼を申し上げます。▼哲明

和尚が病床で書いた書きかけの草稿を、

JR貨物会長の伊藤直彦氏が読まれ、ご

多忙の中、いくつかの出版社に働きかけ

てくださり、出版することができました。

『かわかない心 母の教え、禅的生き方

―松原哲明遺稿集』と題し、哲明和尚

「遺品」として、七月十日のお施餓鬼の

日にお檀家さまにお渡しできればと思っ

ております。▼毎年、新盆のお檀家様と

旧来からのお檀家には、お盆の棚経で、

ご自宅の仏壇に、お経を読ませていただ

いておりますが、哲明が亡くなり、従来

通りお参りにうかがえなくなりました。

棚経にうかがわせたいたたくお檀家様に

は、あらかじめ、はがきを送らせていた

だいております。又、棚経をご希望のお

檀家様は、ご連絡お願い申し上げます。

できるだけ、ご希望にお応えできるよう

にしたいと思えます。皆様には、七月十

日のお施餓鬼法要にご参加いただきたい

と思えます。お位牌拭きをし、畳を変え、

障子を変え、庭を整備し調えられた本堂

で行う龍源寺で一番大きな行事です。▼

お檀家様で、お葬式をだされる場合、知

っている葬儀社がない方は、葬儀社を紹

介させていただきます。いざ、ご家族が

亡くなると、なすべき事がたくさんあり

すぎて、慌ただしいのが現状です。仏事

に慣れている僧侶の私でさえ、非常に慌

ただしい体験をしました。もし、お葬式

をだされる場合、僧侶がいなくとも葬式

ができないゆえに、まず、一番はじめに

龍源寺にお電話を入れていただきたいと

思います。龍源寺本堂もしくは、花園会

館を使用してお葬式・家族葬・密葬も

執り行うことができます。(本堂・花園

会館使用の際は、指定業者となります。)

又、生前のご相談も受けさせていただきます

ます▼年忌法要を行う場合、本堂が二階

にあるため、ご高齢の方は階段の上り下

りが大変です。一階の書院を使って法要

を行うことが出来ます。広さと定例会の

関係上、平日、日曜日に限り十五名まで

でお願いいたします。▼渋谷区広尾にあ

る東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地

の継承者を気にしなくてもよい永代供養

塔です。龍源寺の規則を守っていただけ

れば、どなたでもこのお墓を使用できま

す。▼母は、充実した毎日をおくってい

るようです。境内の浩明梅という、早逝

した兄の追悼で植えた梅の木になった実

で、ジュースを作ってみたり、梅干しを

作ってみたり、境内の梅の実を近所の人

に勧めてみたり。どうも、亡くなった祖

母・志ずに、だんだん似てきたようです。

弟の覚樹(アメリカ在住)も元気にして

おり、七月十日のお施餓鬼の法要に出頭

します。もう一人の弟も元気にしており、

二人とも家庭と仕事を大切にしております。

▼七月十日のお施餓鬼に御齋のちら

しずしを作ります。前日の午後から野菜

の刻みをします。お手伝いに来ていただ

ける方がいらっしやいましたらお願い申

し上げます。▼お施餓鬼の日にお会いで

きるのを楽しみにしております。(信樹)